



取材・構成 牧田栄子(コッコおばさん)
育児まんが 福井亜恵(コッコおねえさん)



北陸・東海編

第6回

乳児嘔吐下痢症

冬に多い赤ちゃんの下痢症。ほとんどはロタウイルスが原因によるものといわれています。水っぽいうんちが半端でなく続きます。おしりだつて真っ赤になります。今回は渡部礼二先生に乳児嘔吐下痢症についておうかがいしました。先生は下痢のときはうんちを調べて、原因から病気の見通しをアドバイス。毎日の診療でまとめた結果を発表なさっています。

今月の「うちの子」先生



わたなべ小児科医院
渡部礼二先生

1947年生まれ。73年金沢大学医学部卒業。同大学小児科、石川県立中央病院などの勤務後、88年金沢市で開業。専門は感染症や消化器の病気。最近では、子どもの健康維持や病気予防の保健活動にも興味を。診療には迅速な検査を取り入れて、原因を明確にし、病気の見通しをアドバイス。検査だけでなく、薬の情報開示にも積極的です。待合室のかわいいウオールポケットには、病気やホームケアについてわかりやすく書かれたパンフがいっぱい。開業してからにも研究活動に熱心で、患者さんたちのデータをまとめて数々発表。『日本外来小児科研究会』の会報誌の創刊号には「細菌性腸炎」の論文が掲載されます。病気と闘った赤ちゃんと、それをサポートした先生の共同研究の成果ですね。

ケースー 体重が加齢も減ってしまいました

群馬県/設楽りえママ・拓哉くん(当時8カ月)

看護婦ナースのつとめで立ち直る!

下痢と嘔吐の繰り返しで、ママはオロオロ。いっから

もって診察して、

と聞いたら、先生からは

あつと目、種がへくるのが遅ければ、大変なコト

と注意され、自信喪失が、でもだれがあげても飲まなかったミルクを、ママがあげたら飲んでくれたので、看護婦ナースから

お嬢さん、

しかあつからず、

コシが、

お嬢さん、

お嬢さん、



拓哉くんは、生後7日目、先天性十二指腸狭窄症の手術をしているので、おなかをこわしやすかったです。ママさんに注意してあげましょう。



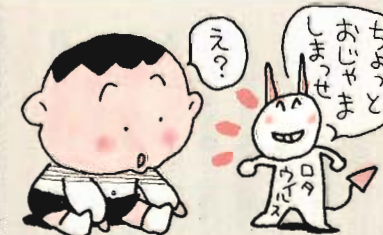
本人のおっぱい

もう元気が、体重も重くなったし、おなかだつてほら、もう「こわれてないよ」



乳児嘔吐下痢症とは?

原因は?



乳児嘔吐下痢症は、吐きけを伴うウイルス性下痢のことをまとめていったもの。そのなかでも、ロタウイルスによるものを、昔から「冬季乳児下痢症」「白色便性下痢」「白痢」と呼んでいました。乳児嘔吐下痢症とロタウイルスによる胃腸炎は同じ意味で使用されるくらい、冬場に流行する赤ちゃんの下痢の多くは、ロタウイルスによるものです。

症状や治療は?

潜伏期間は2日以内。普通、嘔吐が始まり、続いて、あるいは1日遅れで下痢が起つてきますが、嘔吐がなく下痢だけのことも。38度程度の熱が1〜2日間出ることもあります。下痢は水っぽい便からやわらかい便まで、回数も1日2〜3回から20回ぐらいと、さまざま。便の色は薄いクリーム色や白っぽいくなることが多く、ときにはお米のとぎ汁のようなくらいあります。



とつれくはなり、頑張ることが

大変だっけれど、よい経験をさせてくれた息子に、感謝して

拓哉くん、おなかをこわしやすかったです。

とぎ汁のようなくらいあります。

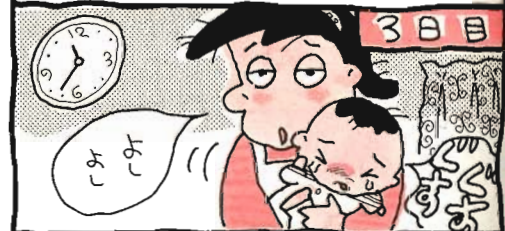
とぎ汁のようなくらいあります。



朝から下痢ばかり。食欲もなし。元気はあるので、こまめに水分補給して、家で様子を見ることにしました。



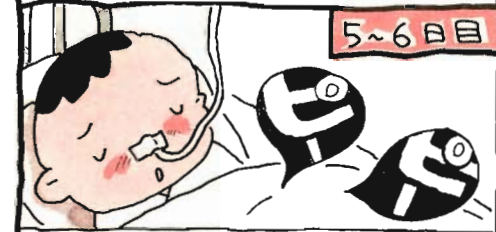
下痢が続き、離乳食も食べなくなりました。いつもは120cc×7回のミルクが100cc×5回に。おしりが赤くなってきたので座浴を。夜11時ごろから機嫌が悪くなりときどき、吐くように...



下痢。ミルクも70cc×5回に。熱は38.5度。近くの病院では「かせ」と診断され、水分補給と座浴をこまめに。夜11時半から、下痢して、吐いての繰り返し。熱は39.2度に!!



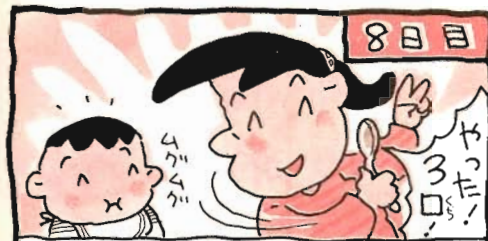
明け方の4時、看護学生の妹に電話。早く病院へ!!と叫びかけられ、かかりつけの小児救急病院へ。妹の心配とあり、脱水状態でした。すぐに入院して点滴。



熱はずっと39度台。下痢も続いていて、点滴。口からミルクを飲まないで鼻からあげることに。



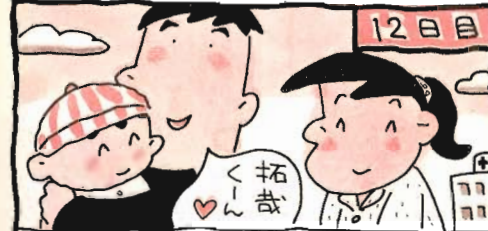
私がミルクをあげると、20ccだけ飲んでくれました!うれしい!熱は38.6度ですが、下痢は少し、治まってきたようです。



点滴。熱はまだ38.3度あるものの下痢は、治まりました。ミルクは60cc×6回。先生が「夕食からおもゆを食べさせてみよう」と言うので、食べさせたら...



熱は37度台後半。だけど、ミルクと離乳食の量は順調に増えていってるので、心配はありません。11日目には、やっと、点滴ははずれました。



飲み薬とおりの塗り薬をもらいめでたく退院。入院したときと比べ、700gも体重が減ってしまいました...



下痢といつても原因はいろいろです

冬から初春にかけてだったら、ロタウイルスによる乳児嘔吐下痢症が最も考えられますが、アデノウイルス、SRVというウイルスでも同じような経過をたどることがあります。また細菌性の下痢の場合もあり、便の様子だけでは、何が原因かはよくわかりません。私は病気の見通しなどをきちんとアドバイスするため、できるだけ便を顕微鏡で見たり、検査をして、病原体を確かめています。

吐きけを伴う下痢は脱水に注意を

元気が出るまでに、治療にもかかわらずかなり時間がかりましたね。きつと水分だけではなく、ナトリウムなどの電解質のバランスもくずした脱水だったのではないかと思えます。吐いたり、飲みが落ちた段階で消化管に負担のかかるミルクにこだわらず、吸収のよいペーパー用イオン飲料だけにして吐かないようこまめに水分を与えたほうがよかったですね。とにかく、赤ちゃんの下痢、嘔吐で怖いのは脱水。下痢は、出た水分を補充すればよいわけですが、これに吐きけが伴う場合は、いかに吐かせないようにして水分補給するかが大切なこととなります。吐けば吐くほど、体の水分や電解質のバランスがくずれて吐きっぽくなります。嘔吐が3回以上続いたり、黄色い液体(胆汁)を吐く場合は、すぐ受診しましょう。

のしかたが非常に大切です。下痢は2、3日目くらいをピークとしてよくなり、乳糖不耐症を合併しなければ、発症してから平均6日くらいで治まります。病気自体はウイルスによるものなので、抗体ができて治るのを待つだけです。いろいろな薬も症状を和らげるだけで経過を短くはしません。その期間、いかに現状を維持し、脱水を予防するかどうかを考えます。脱水がひどくなれば点滴になります。

*乳糖不耐症：ウイルスが付着したり、下痢によって腸管の絨毛が障害を受けたため、そこから分泌される乳糖分解酵素の分泌が低下し、ミルクや母乳など乳糖が含まれるものを飲むと消化できず下痢になる病的状態をいいます。下痢が治っても、絨毛が再生されるまでの1週間くらいは、乳製品を与えない(与える場合は乳糖除去のミルク)、乳糖分解酵素を与えるなどの治療を続けます。

真っ白い下痢便が続きました

発症

やわらかい真っ白なうんちが出ましたが、2日前食べさせたオートミールが悪かったのだらうと思いませんでした。でも、それから下痢が1日4〜5回からだんだん回数が増えてきて、水っぽく……おかしいと思っただけで医に行くこと「かせ」とのこと。下痢止めだけでも帰ってきました。



広島県/塚田民穂ママ
拓人くん(当時9カ月)

下痢止めを飲んでも効き目がなく、下痢の回数が増えるばかり。おまけに38度くらいの熱が出て、久しぶりに嘔吐もしました。しんどいせいか、いつもは元気いっばいの息子もグッタリ、グズグズ。脱水予防のため、ベビー用イオン飲料だけはこまめに飲ませていました。薬は5日分もらっていましたが、飲ま

7日目

今日になっても薬は効かず、ほんのちよっとベビー用イオン飲料を飲んだだけでも、何倍ものうんちが1日10回も出て、本当にかわいそう……。薬がなくなったので、受診することになりましたが、あいにくの休日。そこで隣の市の休日当番医のところへ行ったら「乳児嘔吐下痢症」と言われました。白いうんちが出て、下痢が10日ほど続くとのこと。抗生物質と下痢止めを出してくれました。元気になる、うんちも普通便になりました。

9日目

飲みすぎて吐くことはあっても、飲んでほしいのにたくさん吐いたのはびっくり。おなかが少し緩くなったことはありましたが、こんなひどい下痢も初めてのことで、ずっと機嫌も悪く、外へ出たがったので心配しながらも家のまわりを散歩。親子とも少しは気晴らしになったかも。



1週間ぐらいは我慢です



まめにベビー用イオン飲料を与えたことで脱水を予防できたのでしょう。白い便が出る場合は、ロタウイルス、アデノウイルス、SRVが考えられますが、ロタの場合は7日間、アデノウイルスの場合は5日間くらいの下痢はしかたがありません。どちらも2〜3日目くらいがピークで、しだいに治まってくるものです。ロタウイルスが原因の場合は1日に20〜30回の下痢になることもあるので、その分の水分はしっかり補給しなければなりません。また、下痢の回数が変わらなければ乳糖不耐症(P195参照)などの合併症を想定し、治療します。なお、これらのウイルス性の下痢には、あくまでも症状を和らげる対症療法になります。抗生物質は効果がありません。

双子の下痢症に「てんてん」舞い

発症

1才8カ月の長女未^みが、嘔吐と下痢で乳児嘔吐下痢症と診断され、吐きけ止めの座薬、抗生物質、整腸剤をもらって治療。4日目くらいにうんちもかたまり、やっと元気が戻ってきました。ところが……。

双子の弟寛希と純生が下痢。パパの車で受診すると、やはりお姉ちゃん^{あね}の乳児嘔吐下痢症がうつったとの診断でした。

2人はミルクがほとんど飲めなかったため、抗生物質が入った点滴をすることになりました。病院で3時間ほど点滴して帰り、家では水分はベビー用のイオン飲料やりんごジュースなどを飲ませていました。この日は、2人が交代で、おむつからはみ出るような下痢をするので大変でした。

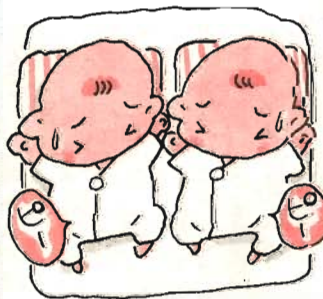
上の子のように嘔吐はないものの、下痢は1人1日、2〜3回も。普段は濃い緑色の便をしているのに、昨日からは、ヨーグルト状のベージュ色のうんちになっています。おしりも少し赤くなりました。ミルクは2倍に薄めたものを与えました。

もう、下痢はありません。ミルクはいつもよりは薄めたものですが、量は元に戻りました。ようやくひと安心！こゝまで主人と2人で世話をしながら、乗りきりました。



鹿児島県/金丸さやかママ
寛希くん、純生くん(当時4カ月)

上の子は、飲んだり食べたりができなくて、機嫌も悪く、病気が重い感じがありました。双子のほうは、早めに気づいて点滴をしたのがよかつたのか、それほどでもありませんでした。でも一度に2人、普段でさえ紙おむつの使用量が多いのに、このときは減り方がすごかつたですよ。



栄養は二の次、水分補給が第一



双子では大変でしたね。ロタウイルスやSRVの場合、きょうだい間では2日以内に発症することが多いようです。経過からすると、吐きけもそんなに強くなく、下痢の期間が短いので、原因はSRVだったのでは。ミルクを薄める指導は、日本の育児書や医学書に書かれています。習慣的に薄めているだけで根拠はないようです。ミルクなどを与えるから、下痢をするわけではありません。また、下痢が激しく、吐きけのあるときは、ミルクよりもベビー用イオン飲料のほうが合っています。ミルクは胃に負担をかけて吐きやすくするだけなので、水分が十分とれるようになってからにしましょう。水分が十分とれるようになり、吐きけがなくなれば、離乳食などは赤ちゃんの食欲にまかせてもよいでしょう。

乳児嘔吐下痢症のホームケア

● 下痢がひどいとき

下痢で出ていった水分を補うつもりで。吐きけがなければ、水分は欲しがるだけ与えてかまいません。飲むものならばなんでも、氷をなめさせるのもいいでしょう。

下痢の回数が多いときはベビー用イオン飲料を。栄養は1週間とらなくても大丈夫ですが、水分は1日とらないと脱水になります。ミルクは薄める必要はありませんが、いつもより少なめに。離乳食などは、初めの1~2日はおなかに負担をかけない意味で、消化のよいおかゆなどを食欲にまかせて与えてもいいでしょう。食欲があれば、食事制限はそれほど必要ありません。

下痢が治まるまでは必ず医師に相談しながらケアしていきましょう。



● 熱があるとき



吐きけがあるとき、熱が悪さをしていることがあります。そのようなときの解熱剤は座薬を用います。吐きけがないときは飲み薬の解熱剤でもいいでしょう。

● おしりのただれ

下痢が続くのでかわいそうですが、ある程度はしかたありません。吐いたり、下痢をしているときに、お風呂に入れると、汗をかき、脱水を助長します。座浴やおしりだけのシャワーくらいできれいにして乗りきりを。



● おむつを持って受診を

ウイルス性、細菌性、アレルギー性など下痢の原因は便の検査をしなければわかりません。おむつのまま、あるいはおまるなどにとった便（水につかっていない）を持参しましょう。



● 嘔吐があるとき



水分の吸収には適度の水分が必要。ベビー用イオン飲料がおすすめです。

水分は初めはほんの少量、ぬらす程度に与え、大丈夫な時間をあけて(20~30分)量を増やして(10~20cc)与えます。吐いたあとや欲しがるまでには与えないように。与え始めてから5~8回、1回量が100~120cc飲んでも飲まなければ、消化のよい少量から始めます。水分がやわらかい段階では果汁やミックスジュースはおすすめではありません。

吐きけが治まらないとき、胆汁を吐いたとき、すぐ受診や再診をしましょう。

渡部先生とクリニックをご紹介します

石川県/谷本一美ママ・侃輝くん(1才8カ月)

病気のときは200%先生を信頼しています



上の子が生後2カ月のときミルクを吐いて、初めて翌日受診したものの、先生は早口で何を言っているのかわからない。でも「大丈夫、こんなことよくあるよ」と言はしつかり耳に。しかも、そばで看護婦さんが英語で翻訳(?)。みごとにチームプレーは、その後の診療で

ましたが、今では私も慣れて通訳なしで理解できます。

上の子が吐いて受診したとき、便を調べて「白痢」と診断。その夜は在とかで「2回以上吐いたら中央病院へ」のアドバイス。結局そのとおりに入院となりましたが、病院の皆さんは「渡部先生の患者さんね」とも親切でした。気になる症状があれば夕方に、夕方受診すれば翌日に、宅に電話で容体の確認があります。先生は、泣き声や待合室の騒ぎ声も聞きまえない感じで受け止め、嫌な顔一つしません。小児科は口コミが大ききよね。実直な先生にファンは多く、遠くからも患者さんは来ていますよ。

かかりつけ先生紹介

募集

うちの子の病気体験記

赤ちゃんがかかった病気の体験談(結膜炎や中耳炎、股関節脱臼など)を下記まで、お送りください。何度の熱が何日続いたか、どんなケアをしたかなど、具体的に書いてね。皆さんの「かかりつけ先生」のご紹介もお願いします(「病気体験記」がなくともOKよ!)。よろしくネ。

●〒370-8687 高崎郵便局私書箱101号

ベネッセコーポレーション

ひよこクラブ編集部◎「コッコおばさん」係